

課題別深掘議論会

本日のアジェンダ

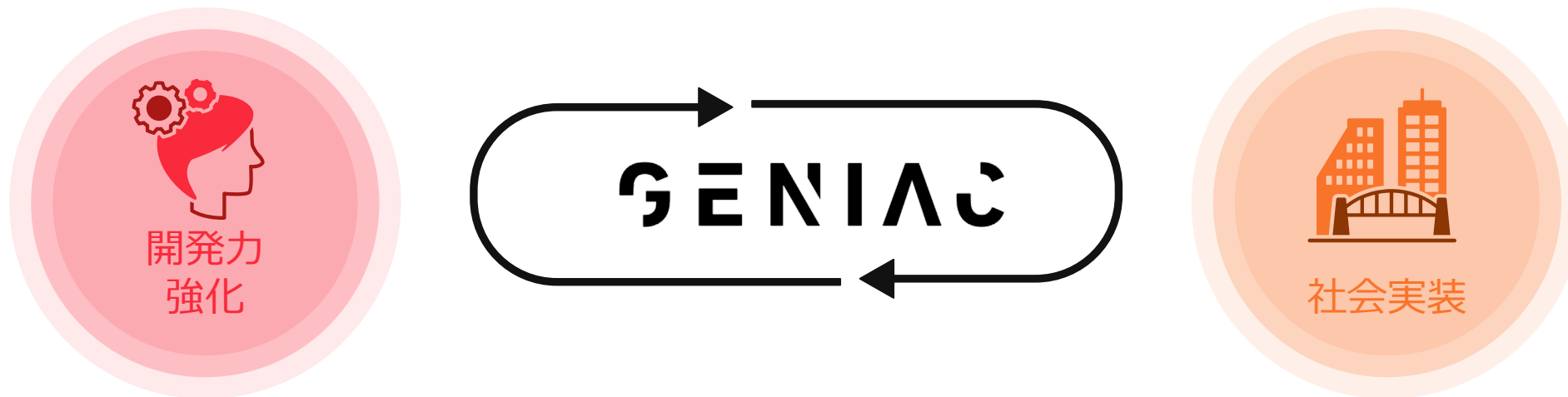
1. 開会のご挨拶
2. 本日の目的・内容
3. 参加企業の取り組み事例共有
4. 各テーブルごとのディスカッション
5. 閉会のご挨拶

本日のアジェンダ

1. 開会のご挨拶
2. 本日の目的・内容
3. 参加企業の取り組み事例共有
4. 各テーブルごとのディスカッション
5. 閉会のご挨拶

GENIACは、日本の生成AIの持続的な開発力を高め、社会実装を加速するために立上げ。
コミュニティでは生成AI活用の促進に向け、イベントを定期的を実施

取組み内容



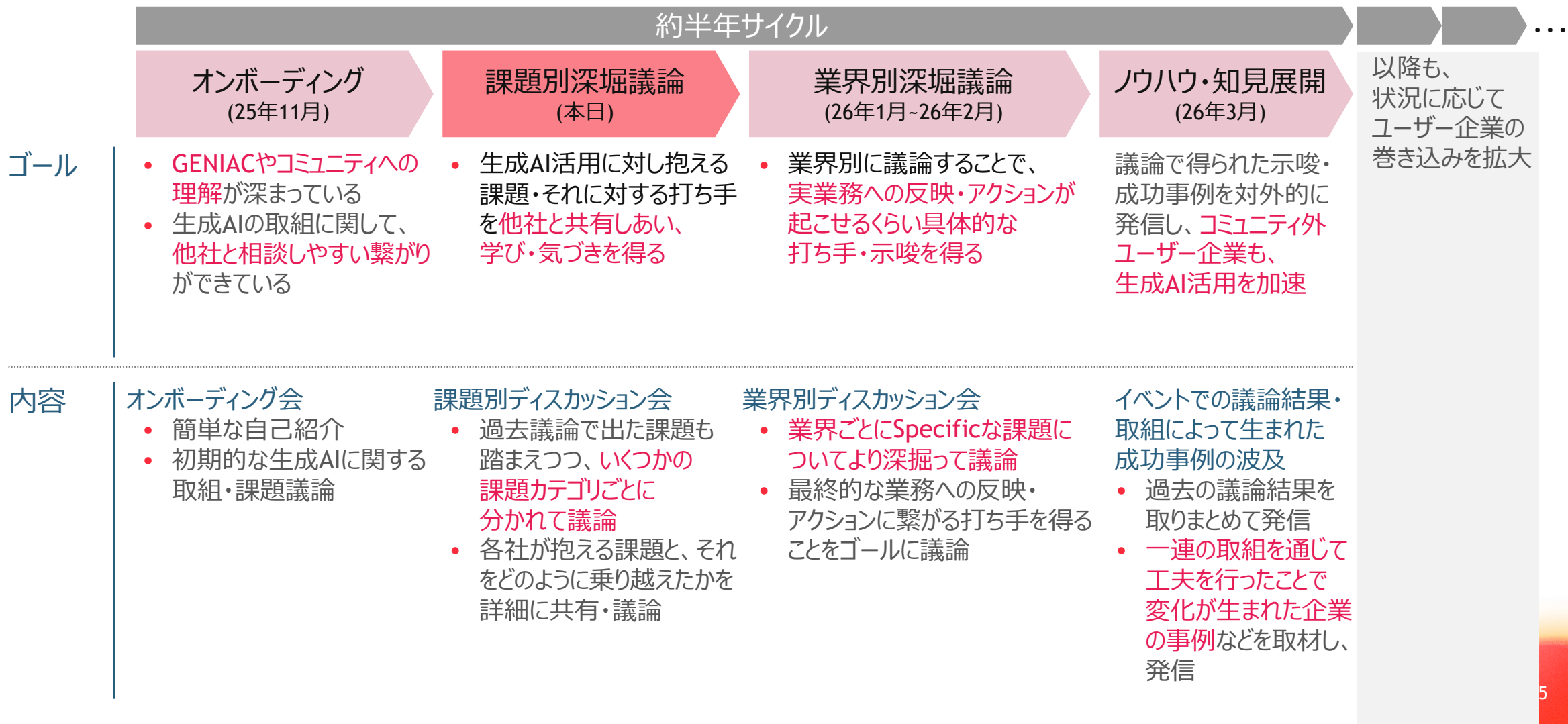
持続的な開発力向上に向け、
具体的には以下3点を支援

- 基盤モデル開発に必要な**計算資源調達**
- 学習用データの獲得に向けた**データ**
エコシステム構築
- 勉強会・セミナーを通じた**ナレッジ共有**

社会実装の促進に向け、生成AI基盤モデル開発者と、
そのモデルを利活用するユーザー企業に加え、**様々な**
ステークホルダーがコミュニティに参画、
社会実装を目指す

約半年間のサイクルで、ユーザー企業の皆さまが生成AI活用について学びや示唆を得て 自社の取組に活かし、生成AIの利活用を進展させていくことを目指す

ユーザー企業同士のナレッジ共有の場の今後のイベントタイムライン



過去のGENIACコミュニティイベントで挙げられた課題に対して、課題別に議論し、 解決策となる具体的な打ち手を模索いただきます

課題別深掘議論会の開催概要

概要

目的	生成AI活用に対し抱える課題・それに対する打ち手を他社と共有しあい、自社へ活かせる学び・気づきを得る
開催日時	12月9日15:00-18:00
実施形態	オフライン
場所	ベツナナ

当日のスケジュール

時間	プログラム
15:00-15:05	1.開会のご挨拶
15:05-15:25	2. BCGより過去イベント概要・課題共有 LT会の課題をオンボーディング会で出た課題も含め、アップデートしたものを共有
15:25-15:45	3. 課題とそれに対する取り組み事例 - 日立製作所 - オープンアップグループ
15:45-16:00	4. テーブルごとに自己紹介
16:00-17:15	5. ディスカッション(下記セットを2サイクル) 35分 ディスカッション 5分 移動&休憩 1サイクル目：事務局指定のテーマ① 2サイクル目：事務局指定のテーマ②
17:15-17:30	6.議論のラップアップ
17:30-17:45	7.締めのご挨拶、懇親会のご案内
18:00-20:00	(任意) 外部会場での懇親会



グローバル先進企業の中で生成AIの社会実装に向けた取り組みとして進んでいる企業は、
戦略/人材・組織/インフラ・データ基盤/セキュリティ・リスク管理の4項目を備えている
ユーザー企業の生成AI実装に必要な構成要素

戦略・
効果測定

AIを前提とするビジネスモデルを支える体制、プロセスやプロジェクト管理、目標設定、パフォーマンスのモニタリングの
仕組みを構築

人材・組織

専門性の高い人材・スキル
AIファーストを支える
専門性の高い人材の質・量の確保

AIフレンドリーな社内風土
新たな技術やAIの活用
に前向きな社内風土

AIファーストなオペレーションモデル
AIを中心に業務と役割の再設計

インフラ・
データ基盤

データ基盤の整備
社内データを統合・管理・加工
できる仕組みを整備

社内システムのクラウド化
(サーバー・ストレージ・処理環境) を
オンプレからクラウドへ移行

AIプラットフォームの整備
自社AIモデルや
MLOpsや推論環境の整備

セキュリティ・
リスク管理

セキュリティ・安全性
AI活用における情報保護・リスク管理体制の確立

11月開催のオンボーディング会や過去イベントでの議論において、ディスカッションで頻出した課題をカテゴリごとに分類すると、グローバルで必要とされている4項目に一致
過去イベントで挙げられた課題

ユーザー企業における生成AI活用推進に伴う課題

課題をカテゴリ分け

- 成果指標 (KPI／ROI) をどう設定・モニタリングするか
- 定量評価が難しい効果 (業務効率・知識創造・社員満足度など) をどのように測るか

戦略・
効果測定
(ROI)

生成AIを活用したことによる効果・ROIをどう可視化するか

- CoEがどの範囲まで意思決定・予算配分・ルール設計を担うべきか
- 現場部門との連携をどう促進し、全社展開につなげるか

人材・組織
(CoE)

CoE活動 (専門的な知識・ノウハウを組織全体に展開していく活動) をどう機能させるか

- 学習データ整備をどの範囲・レベルで進めるべきか
- 外部データ活用や匿名化処理の実践的なハードル

インフラ・
データ基盤
(データ)

生成AI活用にあたり重要な社内のデータ整備をどう進めるか

- 各社のガイドライン整備・セキュリティ対応の状況・事例
- 社外サービス利用におけるセキュリティラインの考え方

セキュリティ・
リスク管理
(リスク)

生成AI活用にあたってのセキュリティ懸念・リスクにどのように対応するか

戦略・ガバナンスにおける課題はどのようにAI導入の投資対効果を経営層に示すか、それに対する打ち手は成果指標や中長期的な視点での評価指標の設計が必要

ROIに関する課題と打ち手サマリ

課題	打ち手
評価指標の設計	- AI導入後の成果指標を全社で明確化 - 例：コスト削減、効率化、売上貢献等
投資対効果の計測	短期的なROIだけでなく、中長期的な価値創出の視点も含めて評価指標を設計
経営層への連携	経営層を巻き込んだ意思決定プロセスの構築

CoE組織における課題は「経営のコミットメント」、そのうえでの「CoE組織への権限移譲」、AI導入を強化する「組織内インセンティブ設計」の3要素が肝要

CoE組織に関する課題サマリ

CoE組織権限集約の流れ

CoEはあるが権限集約されていない企業

CoE組織に権限集約され取組みが進んでいる企業

経営のコミットメント

- 経営のコミットメントがなく、AI戦略会議も開かれていない

- 経営のコミットメントがあり、役員間のAI戦略会議も月1くらいで開催

CoE組織への権限移譲

- CoE組織はIT・ガバナンスと別組織・横並びで、意思決定できない
 “CoE組織は社内公募の有志手上げで立ち上がり、なぜかIT部門配下になったが、実際元々のIT部隊と殴り合いをしている”
- CoE組織内にエンジニアはいない・不足、そもそも企業全体でもない・不足

- CoE組織にIT・ガバナンスより強い権限を付与
 “CoE組織が決めたことに、IT・ガバナンス組織がついてくる構造”
- CoE組織内にエンジニア組織があり、実行機能も保有

組織内インセンティブ設計

- AI導入に対する取組みにインセンティブ設計なし

- AI導入に対する取組みに対して人事制度上もインセンティブを設計
 (スキル・成果の可視化→評価・ボーナスへの反映等)

明確なユースケースは生まれず

結果、成果・インパクトが明確なユースケースも生まれている

- “サービスローンチ前の検証作業に多大なリソースがかかっていたが、AI化・エージェント化によってFTではなく人員数レベルで削減・効率化できている”

CoE組織への権限移譲が進んでいる企業でも、さらなるアップデートに向けては、全社でのガバナンス設計や各事業部どうしの理解の深化等に取り組む必要

CoE組織に関する課題と打ち手サマリ

課題		打ち手	
全社でのガバナンス設計	- 事業部ごとで取組が散逸的に進む - 標準化されたLLM・フレームワークがなく、各事業部で散逸的に取組みが進んでいる		うまく行ったものを拾い上げ、標準化していくことが重要
各事業部の業務理解	- お互いの業務が分かっていない - 優先度が分からない		- 各事業部にCoEのエバンジェリストを設置 - 上記に向け、人事制度でインセンティブ設計 - 加えてコミュニケーションツールを整備
内外からの期待値コントロール	経営からも現場からも過大な期待値が降ってくる		成果・インパクトの定量化を通じた、期待値コントロール

データ利活用における組織・人材の在り方が議論の焦点となり、現場のベテラン・エンジニア・推進役を組み合わせた実効性ある体制構築の必要性を確認

データ利活用に関する課題と打ち手サマリ

課題	打ち手
データ資産化 に向けた組織 ガバナンス・	データ利活用を推進するには、「受け皿」としての組織設計が重要 - 現場を理解するベテラン人材・IT部門の知見・推進役を組み合わせた体制構築 さらに、こうした体制のもとで小規模プロジェクトを立ち上げ、短いサイクルで成果を積み重ねることが重要 - 各プロジェクト毎で特化データを生成し、その成果を成功体験として共有 - 全社的に納得感が醸成され、持続的なデータ利活用文化の定着へとつながる
ユースケース の具体化	
データの デジタル化・ 集約	
データの 前処理・加工	
ツールの 開発・現場 導入	
各部門が自部門の業務最適化を優先、他部署とデータを共有する文化やガバナンス体制が不十分 組織 “理屈では全社のデータ活用が重要とわかっているが、現場にとってはドメイン特化が重要で、横断的な集約の必要をそもそも感じていない”	
経営層は全社横断的で抽象度の高いDXビジョンを掲げる一方、現場は自部門の即効性ある改善ニーズに集中しがちで、お互いの視点が噛み合っていない “本社が掲げる“DXで会社を変革”という構想は、現場から見ると遠い理想論に聞こえてしまい実感が持てないという声も聞く” “経営視点では“現場の提案は局所的で全社戦略と結び付かない部分最適ばかり”と映っており、この溝を埋めない限りDXは成功できない”	
現行システムに載せきれない大量のレガシーデータや紙資料が社内に滞留されている “旧来の専用端末や紙台帳に記録された過去データが山ほどあるのに現行のデータ基盤に移行できていない” “古いシステムや部署ごとにバラバラのフォーマットで蓄積されたデータが多く、捨てることもできずに抱え込んでしまっている” “長年蓄積してきた顧客データが部署ごと・サービスごとに分散していて活かせず、どのデータに価値があるのか手探りの状態”	
データ整備が属人依存のまま専門人材も不足し、散在・非統一データの活用が全社的に停滞 人材 “センサーからの稼働データと生産管理システムのデータがフォーマットも単位もバラバラで、統合するだけで数週間かかってしまう、分析に入る前に人も時間も消耗する” “サービスごとにシステムが別々でデータを一枚岩で見られない、誰か詳しい人に頼むしかない属人状態が続いている”	
データ活用ツールを入れること自体が目的化してしまい、利用シナリオや現場ニーズの定義が曖昧なまま導入が進行した結果、定着しない “分析ツールを導入したが、現場で結局使われなくなり、皆元のExcelに逆戻りした、ツールの導入が目的化し現場に根付かない” “現場から“分析ツールが専門的すぎて自分たちには使いこなせない”という声上がり、結局データ分析は一部のデータ専門部署任せになっている”	

リスク管理を強化しスピードも担保するには、CoE組織とも連携しながら組織設計として対応していく必要

リスク管理に関する課題と打ち手サマリ

課題	打ち手
ハルシネーション・アウトプット品質リスク - 出力の品質・信憑性を確認せずにそれをそのままアウトプットに利用してしまう傾向 - 最近では、生成できるメディアの多様化 (音楽、動画 等) に伴い、カバーすべき範囲が増えている - 法的には問題なくても、対外的にお客様から見たときに信頼性が損なわれるようなリスクが存在	- アウトプットを別のAIでダブルチェック - リスク判断にメリハリをつけつつ、インパクトの大きいものは慎重に判断 - リスク判断の基準が確立されていない音楽等に対しては、SE等短いものは一定許容し、BGM等長いものには制限をかける - 多様な視点を持つ関係者を巻き込んで審査の目を増やすことが重要
著作権・機密情報管理 判断が容易なものと同難なものが存在	- 外部の専門家の投入 - コンテンツを生成する際は、プロンプトを保存することを義務化
リスク管理のスピード、責任の所在 - 経営側が設定するリスクは、実際に起こるものからかけ離れている - 関係者を増やすという打ち手は、リスクの低減にはなるがその分意思決定のスピードが遅くなるため、そのバランスが難しい、という点が議論になった	- 生成AI導入を推進する側とリスク管理する側の一体化 - 会社で定められている重要リスクだけは経営が判断し、小さなリスクは生成AIの推進部署や各現場で判断 (= 権限移譲) - その重要リスクを決めるときに、経営層で勝手に決めるのではなく現場側が実態に即したものを設定するのが大事
新興技術への判断 どんどん新たなツールが出てくる中で、いちいちリスク判断ができない、との声	- 実証に関してはある程度自由度を持たせ積極的に新しい技術も使い、本格導入するときには改めて厳しくチェックする - サービスごとに利用規約を設けるのではなく、生成AI全体に対する普遍的な判断基準を持っておくと、新しいサービスに惑わされずに済む

今回のディスカッションテーマ

ユーザー企業における生成AI活用推進に伴う課題

- 成果指標 (KPI／ROI) をどう設定・モニタリングするか
- 定量評価が難しい効果 (業務効率・知識創造・社員満足度など) をどのように測るか
- CoEがどの範囲まで意思決定・予算配分・ルール設計を担うべきか
- 現場部門との連携をどう促進し、全社展開につなげるか
- 学習データ整備をどの範囲・レベルで進めるべきか
- 外部データ活用や匿名化処理の実際的なハードル
- 各社のガイドライン整備・セキュリティ対応の状況・事例
- 社外サービス利用におけるセキュリティラインの考え方

課題をカテゴリ分け

戦略・
効果測定
(ROI)

生成AIを活用したことによる効果・ROIをどう可視化するか

人材・組織
(CoE)

CoE活動 (専門的な知識・ノウハウを組織全体に展開していく活動) をどう機能させるか

インフラ・
データ基盤
(データ)

生成AI活用にあたり重要な社内のデータ整備をどう進めるか

セキュリティ・
リスク管理
(リスク)

生成AI活用にあたってのセキュリティ懸念・リスクにどのように対応するか

本日のアジェンダ

1. 開会のご挨拶
2. 本日の目的・内容
3. 参加企業の取り組み事例共有
- 日立製作所
4. 各テーブルごとのディスカッション
5. 閉会のご挨拶

目次

1. イントロダクション

2. KSF（キーサクセスファクター）

3. 得られた知見

4. 事例紹介

5. 課題

6. 今後の変革の方向性

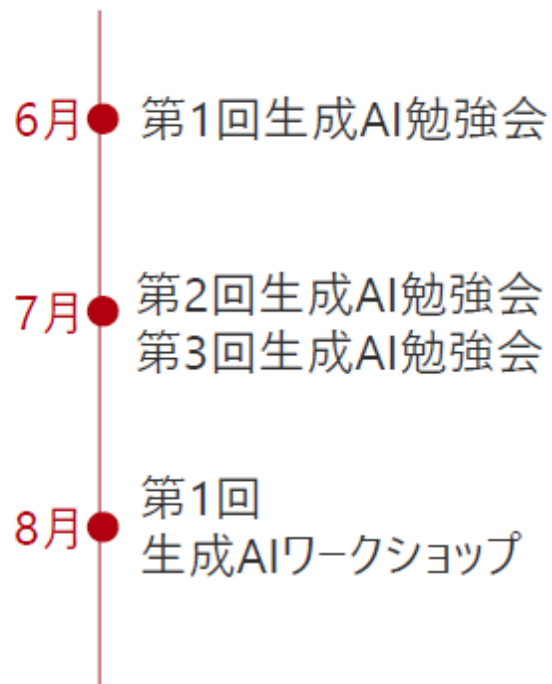
7. まとめ

付録

24年度上期の取り組み

2024年上期

■ イベント



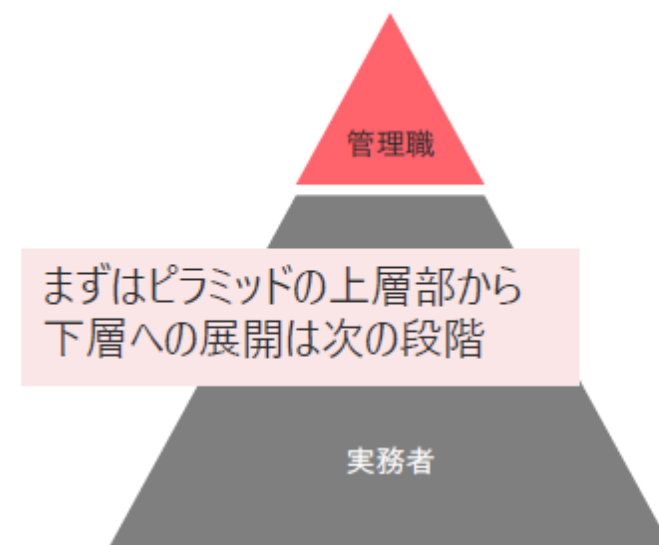
■ アプローチ

■ トップダウンによる強力な推進

まずは管理職へ啓発

■ 効果的な推進体制の設計

- ・部門横断的なタスクフォースを編成する
- ・営業現場の代表者を必ず含める
- ・明確な役割分担と責任範囲を設定



24年度下期の取り組み

2024年下期

■ イベント

- 10月 ● Copilot勉強会
- 11月 ● 第3回
生成AIワークショップ
- 2月 ● ワンストップポータル
活用研修
- 3月 ● Copilotコンテスト

■ アプローチ

■ ボトムアップのアプローチ

取り組み	頻度
部会での最新トレンド発信	月 1 回
部会での個人発表への活用	毎月1人発表
週末勉強会・ワークショップ (皆で生成AIを使ってみよう)	毎週金曜 17時～30分

数字で見る変革：1年間の成果

100%活用達成！数字が語る北海道の奇跡

生成AI利用率

100%
が利用

「生成AIを利用している」
と回答した割合

生産性

100%
が効率化

「業務が大幅に効率化された」「少し効
率化された」と回答した割合

作業時間

92%
が短縮を実感

「作業時間が大幅に短縮された」
「少し短縮された」と回答した割合

Copilot勉強会

85%
の満足度

「満足」と回答した割合

Copilotワークショップへの評価

生成AIへの理解は深まったか	72%
研修は有意義だと感じたか	82%
今後、生成AIを業務活用したいか	92%

「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合

営業・フロント人材向けの
社内コミュニティ主催の
生成AI活用実践セミナー

(適宜開催、延べ**4,000**人以上)

数字で見る変革：1年間の成果

Copilot活用状況調査結果より

■ 会議関連

- ・ 議事録作成が容易になった。
- ・ 会議の要点まとめが容易になった。
- ・ 途中参加・欠席した会議でも議論の要点がわかる。

■ プレゼン・資料作成

- ・ 画像作成でクリエイティブな伝え方が可能になる。
- ・ プレゼン資料のデザインやレイアウトがしやすくなる。
- ・ パワポ資料の要約機能で提案書を要約。
- ・ 大雑把な情報取り出し、たたき台レベルの資料作成が楽になる。

■ 記事作成・編集

- ・ アイディアの整理や文章の修正が楽になる。
- ・ ドラフト作成により時間的・精神的な余裕が生まれる。
- ・ 文章作成時のストレスが軽減される。
- ・ 文章がより整然としたものになる。
- ・ 文書の推敲や整理の手間が減少する。
- ・ 外部向けのレター作成が迅速化し、正確性が向上する。

■ その他

- ・ Google検索からの整理時間が短縮。
- ・ 仕事の質が高まり、時間短縮以外の効果もある。
- ・ Excelの効率的な関数を呼び出せる。
- ・ 長い情報のインプットが楽になる。
- ・ 反復的作業が減る。
- ・ 誤字を見つけてもらえる。
- ・ 市場調査の時間が大幅に削減。
- ・ 情報収集業務の一時調べに役立つ。
- ・ 作業者の心理的安全性が向上。

7. まとめ

生成AI導入を加速する「口コミ拡散戦略」

口コミ拡散戦略のステップ



AIエージェントの書籍『実践 AIエージェントの教科書』を出版

内容

[序章]

第1章 AIエージェントとは？

[技術編]

第2章 AIエージェントアプリケーションの開発

(開発全般、Orchestration、MCP / A2A、認証と認可、Observability、データ基盤)

[活用編]

第3章 オフィスワークでのAIエージェント活用

第4章 システム開発・運用保守でのAIエージェント活用

第5章 多様な業界・現場でのAIエージェント活用

[最終章]

第6章 今後の発展

対象読者

- ・AIエージェントを活用して事業変革や業務改革を目指す経営企画部、DX推進部、情報システム部の方々
- ・AIエージェントの設計・開発・導入を担うシステムエンジニア、ソフトウェア開発者
- ・AIエージェントを用いてデータ分析プロセスを高度化したいデータサイエンティスト
- ・自身の業務にAIエージェントを適用し、生産性を向上させたいと考えている業務ご担当者

書籍情報

- ・監修：株式会社日立製作所 AI CoE
- ・出版社：株式会社リックテレコム
- ・定価：2,970円（税込）
- ・発売：2025年10月下旬



お客さまのAI活用をどのように変化させていくか

HITACHI

社内外で活躍するフロンランナーによるナレッジ、気づきの提供



Next Generation Activated.

HITACHI

本日のアジェンダ

1. 開会のご挨拶
2. 本日の目的・内容
3. 参加企業の取り組み事例共有
4. 各テーブルごとのディスカッション
5. 閉会のご挨拶

ディスカッションの流れ

15:45-16:00(15分)

各テーブルにて自己紹介
&
各テーブルのテーマに沿って
"課題"を記載いただく

**16:00-17:15(75分)**

各テーマについて
ディスカッションいただく

16:00-16:35
(35分)
テーブル指定①

16:35-16:40
(5分)
休憩

16:40-17:15
(35分)
テーブル指定②

各テーブル課題テーマ

課題

課題

課題

各テーブル課題テーマ

課題

課題

課題

解決策

解決策

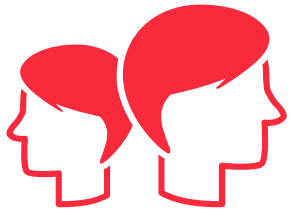
解決策

課題

その他
情報

課題

以下のようなアジェンダで、各課題の解決に向けたディスカッションください！



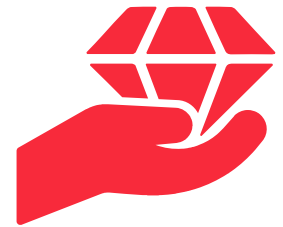
自己紹介



自社の生成
AIに関する
課題



課題に関する
解決策



ユースケース、
Tipsのシェア

ご自身の所属企業のお名前があるチームのテーブルにお座りください

課題

- ① : ROI
- ② : CoE
- ③ : データ
- ④ : リスク

本日のアジェンダ

1. 開会のご挨拶
2. 本日の目的・内容
3. 参加企業の取り組み事例共有
4. 各テーブルごとのディスカッション
5. 閉会のご挨拶

The logo features the word "GENIAc" in a bold, black, sans-serif font. The letters are slightly irregular, giving it a hand-drawn or artistic feel. The "G" and "c" are lowercase, while "E", "N", "I", and "A" are uppercase. The background is white with several large, semi-transparent, overlapping circles in shades of red, orange, pink, and purple. These circles are positioned around the text, with one large orange circle on the left, a large purple circle on the right, and several smaller circles in the upper and lower portions of the frame.

GENIAc

Generative AI Accelerator Challenge